学校だより
2022（R4）年
３月１日発行

いちじょうつ子３月

春寒も緩みはじめ，梅のつぼみがほころび，可憐な花を咲かせています。陽光に誘われて，冬眠していた虫たちが動き出す季節になりました。コロナ禍の生活を強いられているとはいえ，季節は着実に春に向かっています。今年度もあとわずかになりました。今年度も，新型コロナウイルスが教育活動にも様々な影響を及ぼしましたが，その影響を感じさせないほどに，子どもたちの成長が感じられた一年であったように思います。４月には６年生が中学校へ進学し，他の学年は一学年ずつ進級し，新たに31名の１年生が入学してくる予定です。

さて，小学校の６年間を考えると，１年生から，６年生へと心身ともに大きく成長します。学習内容も目で見て形で表せる具体的な学習から形では表しづらい抽象的な学習へと進みます。特に，算数などは分数や小数などの概念や空間図形など理解しづらい学習をしていきます。

また，学年が上がるにつれて，委員会活動やクラブ活動，学校行事などを通して，役割を担いその仕事を果たす責任感と友達と協力して物事に取り組める協調性などが育成され，子どもたちの自立が促されていきます。そして身についた学習や自立心が中学校生活で一層伸ばされていきます。こう考えてみると，９年間の義務教育の中で小学校が担う役割は非常に大きいと感じています。「〇年生だからこのくらいはできてほしい」など，学年が上がれば上がるほど求められること，期待されることは膨らんでいきます。

さらに，中学校では小学校よりも子どもに任せる部分が大きくなります。これまでの経験から，小学校段階で「こういうことができるようになった」という実感と「さらにこういうことができるようになりたい」という願いが子ども自身にないと中学校でさらに伸ばすのは難しくなると感じています。

そこで，この一年間で「何ができるようになったか」「言われなくてもできるようになったこと」など，お子様の成長を振り返るようなことをご家庭での話題にしていただけたらと思います。そうしたことが子どもに自信をつけ，さらに成長していく原動力となるものです。特に，６年生には小学校の６年間を振り返って自分が大きく成長していることに気づき，中学校での飛躍につなげてほしいと願っています。

今年度は，新型コロナウィルスが教育活動にさまざまな影響を及ぼしました。学校行事の中止や変更が相次ぎ，保護者や地域の皆様には，ご心配をおかけしましたことをお詫び申し上げます。皆様のご理解とお力をお借りして，子どもたちの健康管理を続けながら，１年間の教育活動を終えることができますことを心から感謝しております。今後とも，保護者や地域の皆様とともに，本校の教育活動の充実に向けて，教職員一同，全力で取り組んでまいります。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【東日本大震災から11年！】

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から11年。そこに暮らす人々のがんばり，たくさんの方々の支援により被災地の復興は進められたものの，時が経つにつれ，私たちの記憶と教訓は薄れてきてはいないでしょうか。

しかし，災害大国である日本に住む以上，被災経験の有無にかかわらず，誰もが「自分事」として受け止めることが大切です。

また，被災地では，現実の切実な，けれど正解のない問題に対して，大人も子どもも互いに手を取り合い，自分に何ができるかを考え立ち向かってきました。もう元には戻せないものがあるなかで，どうすれば「よりよくなるか」。それは，まさにこれからの時代に求められる力であり，みんなが学ぶべきことだといえます。

地震は「いつ起きてもおかしくない」といわれています。それは「いつか起きる」という意味ではなく，「明日起きてもおかしくない」「今日起きてもおかしくない」という意味です。

一条小学校でも，これまで避難訓練を実施し，常に備える意識を大切にしてきましたが，地震は学校で起きるとは限りません。むしろ，学校以外の時間帯に起きる可能性が高いと言えます。どんな時でも，それが一人でいる場合でも，子どもたちには「自分の命は自分で守る」ことを最優先してほしいと思います。

これは，糸井重里さんと平了さんの対談の一部です。

「３月11日を忘れないように」ということは，よく言われます。しかしその日は，忘れないようにする日ではなく，忘れられない日です。忘れたいのに忘れられない日が３月11日です。いちばん忘れちゃいけないのは，なんてことない，本当に何でもない日々です。幸せだったはずの，前の日なんじゃないかと思います。

生きているということ，今を生きているとは，家族や友達がとなりで笑っていること。３月11日は，「あたりまえの幸せ」を大切にする日であってほしいと思っています。

釜石市では，「玄関で靴を脱ぐときは，きちんとそろえて脱ぎなさい。いざという時にも履きやすい」という教えがあるそうです。ご家庭におかれましても，これを機会にいつもの暮らしのなかで，非常時に役立つ要素を取り入れてみてはどうでしょうか。